

令和元年・2年度 鹿児島県教育委員会指定研究協力校「読書指導」

研究紀要

研究主題

本に親しみ，自ら学びに生かす児童の育成



いちき串木野市立川上小学校

目 次

あいさつ

いちき串木野市立川上小学校校長 北 洋昭

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	目指す子ども像	2
4	目指す子ども像を具現化するための仮説	2
5	仮説を具現化するための研究内容	2
6	図書を活用する力	2
7	研究構想図	3
8	研究内容ごとに分類した活動全体図	3
9	研究の実際	
	(1) 研究内容1 子どもの「もっと知りたい」を育む各教科等の授業の構築	
	ア 図書活用の在り方の分類	4
	イ 活用リストの作成	8
	ウ 公立図書館との連携	8
	(2) 研究内容2 子どもの「読みたい」をふくらませる図書環境の整備, 家庭・地域との連携	
	ア 魅力的な本の紹介の工夫	9
	イ 本を読む機会の設定	11
	ウ 保護者や地域を巻きこんでの連携の工夫	12
	エ 図書室環境の充実	13
	(3) 研究内容3 子どもが「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする交流活動の工夫	
	ア 本の楽しさを感じさせるための工夫	14
	イ ビブリオバトル大会	15
10	成果と課題	
	(1) アンケート調査から見る児童と保護者の反応	16
	(2) 研究内容1について	17
	(3) 研究内容2について	17
	(4) 研究内容3について	17
	(5) 研究全体を通して	17

1 研究主題

本に親しみ、自ら学びに生かす児童の育成

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

グローバル化や情報化が急速に進展するこれからの社会においては、職業や働き方、そして、社会の構造そのものさえ大きく変わっていくと考えられる。また、人工知能が人類の知能を越える「シンギュラリティ」の影響や感染症の世界的大流行（パンデミック）など、予測不能な事態も起こり得る。そのような社会を生きていくために、子どもたちには、次のような力が求められる。



- 答えが見えない課題について、自ら調べて情報を集め、論理的に考え判断し、他者と協働しながら最適な答えを導き出す力（資質・能力）
- 学ぶ楽しさを知り、生涯学び続けようとする意欲（情意的側面）

そのような力を育成するためには、インターネットやSNS等の電子情報のみに頼ることなく、多くの人の手によって編集・出版され、正確で多種多様な情報を取得できる図書を活用した学習に取り組むことが必要である。教科指導等に図書を活用することで、次のような効果が期待できる。

- 図書には正確で幅広い情報が構造的に掲載されており、情報の正しい集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方などの学び方や考え方を身に付けることができる。（資質・能力）
- 図書で集めた情報と既存の知識や他者の情報との比較を通して、関係性を論理的に考え、的確に判断・表現し、よりよい考えを創り出すことができる。（資質・能力）
- 目的に応じた多様な読書を推進することができ、日常的に読書に親しむ態度を育成することができる。（情意的側面）

また、新学習指導要領には「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」と示されている。

(2) 学校の課題から

本校児童は、全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査において全国または県平均を上回り、NRTにおいてもアンダーアチーバーはいない。授業中も主体的に学習に取り組む素直で明るい子どもたちである。

しかし、目の前の事象や出来事に対して「なぜだろう」「どのようになっているのだろう」などと疑問を抱き、自ら意欲的に調べようとする姿は不十分である。

そこで、課題を解決したらそこで終わるのではなく、「課題を追究する過程や解決した後に生まれた疑問を更に意欲的に調べ続ける子ども」を育成したいと考えた。

また、本校は平成29年度に全九州学校図書館コンクールで優秀賞を受賞するなど、図書室環境は充実しており、読書好きの子どもたちは多い。その環境を更に教科等の学びの充実へも発展・充実させたいと考えた。



3 目指す子ども像

- (1) 「なぜ? どうして?」という気付きを大事にして、自ら進んで調べ、学びに生かす子ども
- (2) 「読みたい」という気持ちをふくらませながら、日常的に本に親しむ子ども
- (3) 「楽しい」という気持ちをもちながら、読んだり伝えたりする活動に取り組む子ども

4 目指す子ども像を具現化するための仮説

仮説 1	授業の中で、意図的な声掛けや仕掛け等を工夫することによって、「なぜ? どうして?」という気付きをもち、自ら進んで本で調べ学びに生かせる児童に育つのではないか。
仮説 2	図書環境の整備、家庭・地域との連携を工夫することによって、「読みたい」という気持ちを膨らませながら日常的に本に親しむ児童に育つのではないか。
仮説 3	図書を活用した交流を促す活動を工夫することによって、「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする児童に育つのではないか。

5 仮説を具現化するための研究内容

(1) 研究内容 1 … 子どもの「もっと知りたい」を育む各教科等の授業の構築

子どもの「もっと知りたい」という思いを育むためには、読書指導の要である国語科はもちろんのこと、各教科等の授業においても図書を活用した授業を行うことが必要である。そこで、各教科等における授業の中で、どのような視点で図書を活用した授業を構築していけばよいかを考え、図書の活用リストを作成し実践していくことにした。

(2) 研究内容 2 … 子どもの「読みたい」をふくらませる図書環境の整備、家庭・地域との連携

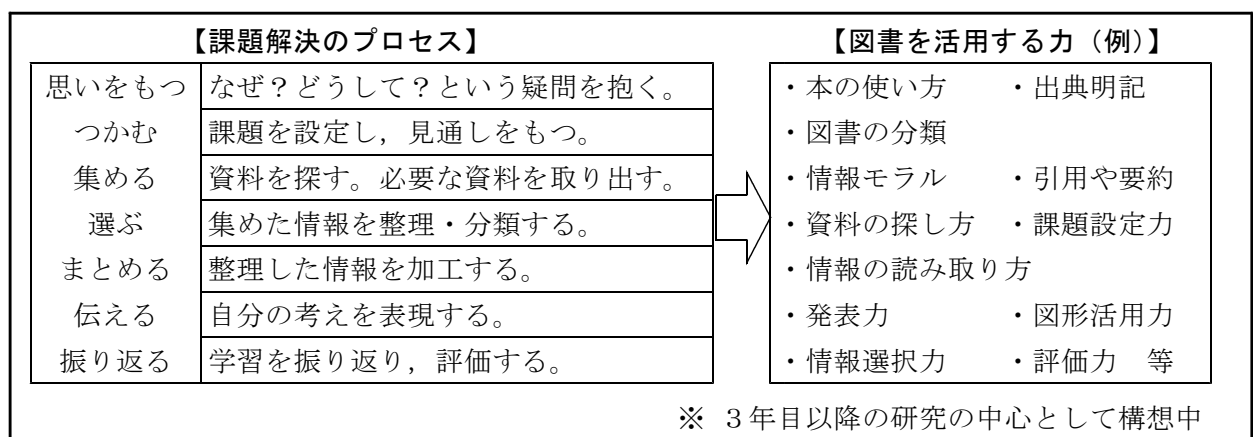
「読みたい」という気持ちを膨らませながら日常的に本に親しむ児童を育成していくためには、魅力的な本をどのように紹介していくか、本を読む機会をどのように設定していくか、どのようにして保護者や地域の方を巻きこんで連携を図っていくのか、という3つの視点で研究を進めていくことにした。

(3) 研究内容 3 … 子どもが「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする交流活動の工夫

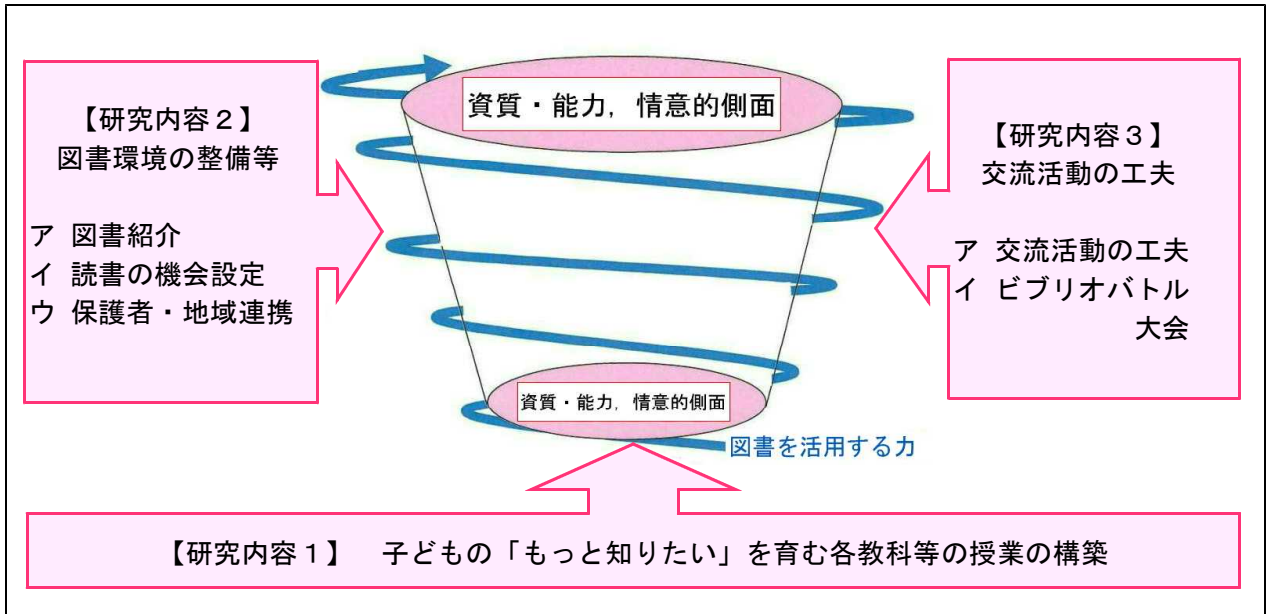
「楽しい」という気持ちをもちながら、読んだり伝えたりする活動に取り組む児童を育成していくためには、本を通して他者とつながり面白さを共有すること、自分の感想や考えに共感してもらい認めてもらうことが大切である。そこで、日常的に図書を介した交流活動ができる環境・雰囲気づくりに努めるとともに、本の面白さを共有し合うような機会を設定することにした。

6 図書を活用する力

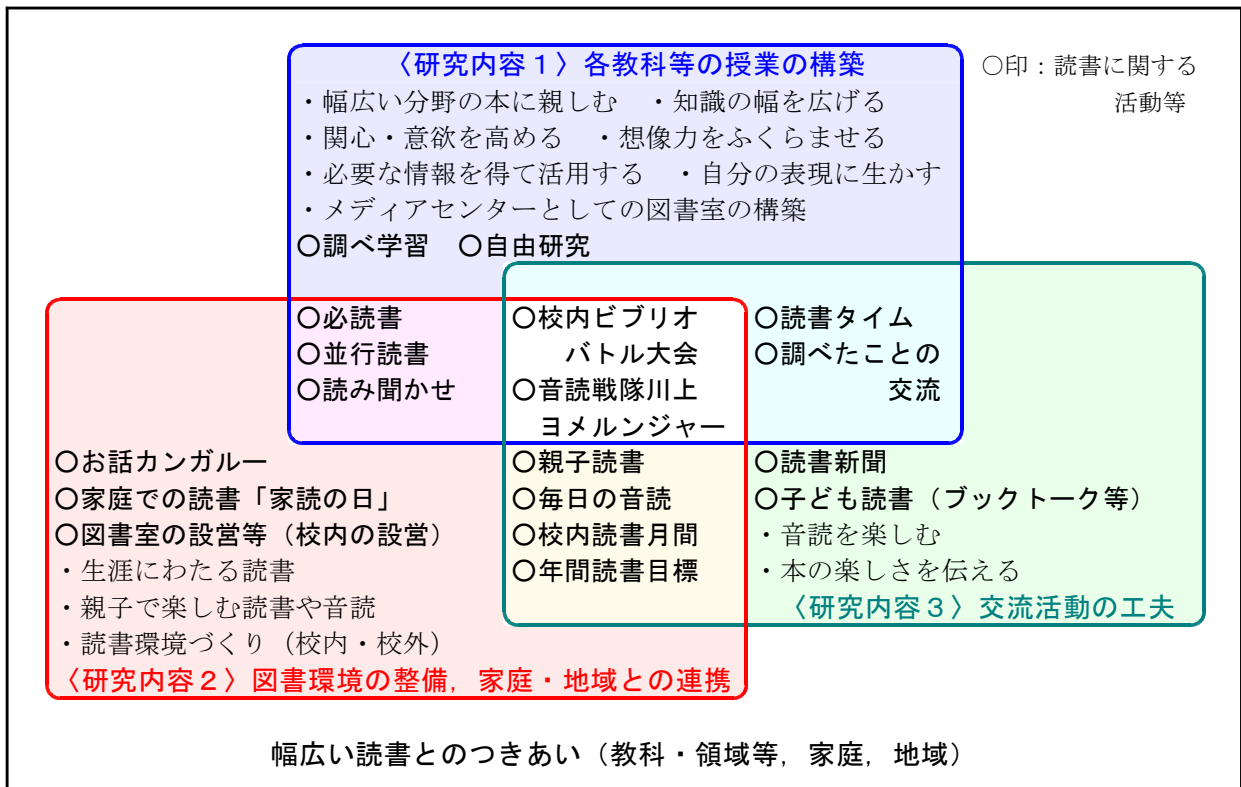
本校の研究では、児童の図書を活用する力を高めていきたいと考えている。図書を活用する力については、課題解決の過程で下記のようなプロセスと力が必要であると捉えている。1・2年目は、特に「思いをもつ」の段階である読書への意欲を高めるための研究を中心に進め、3年目以降に図書を活用する力全体を高めていくための研究を行っていく。



7 研究構想図



8 研究内容ごとに分類した活動全体図



【お話カンガルー（朝）】



【川上ヨメルンジャー】



【子ども読書】

9 研究の実際

(1) 研究内容 1 子どもの「もっと知りたい」を育む各教科等の授業の構築

ア 図書活用の在り方の分類

各教科等において図書を活用した授業実践を推進していくために、図書活用の在り方を4つの視点で分類し整理した。

1 興味・関心喚起型

興味を高めるために読む

当該学習内容を知らない、または興味・関心が薄い子どもたちに対して、図書を活用することで、興味・関心を高める。

(1) 導入段階で興味・関心を高めるパターン

3～6年 総合的な学習の時間「麦を育てよう」

新たに開墾した畑に何を育てるのか話し合い、食生活には欠かせない「麦」に決まった。しかし、全ての児童が麦自体を見たことすらない状態であった。そこで、育ち方や世話の仕方を調べて、今後の活動の参考にすることにした。

3年生が担当になり図書室で麦について調べてまとめ、みんなに紹介した。調べていく中で、「麦踏み」という作業があることに興味をもち、「なぜ、育ってきているのに踏みつけてしまうのか？」という疑問が出されるなど、他の植物の育ち方と比較しながら学び、これからの栽培活動に大きな関心と意欲をもたせることができた。



(2) 展開段階で興味・関心を高めるパターン

1～6年音楽科「こいのぼり」

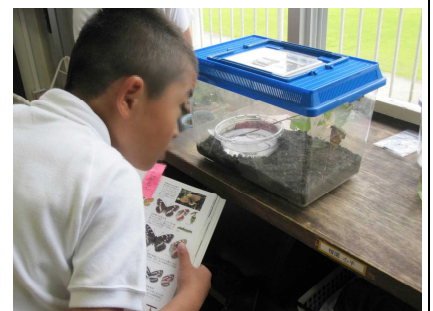
「こいのぼり」の歌は2種類ある。本校は、1～6年までが一緒に音楽の授業を行う機会が多い。全員で「こいのぼり」を2曲歌うことになったが、5年生の教科書に掲載されている曲は、「鯉の滝登り、竜になる」など、歌詞の意味や歌詞に込められた願いが下級生には難しかった。そこで、練習に入る前に「こいのぼりさん ありがとう」という紙芝居を教師が読み、鯉のぼりのイメージをもたせることで、みんな元気よく歌うようになった。



(3) 終末段階で興味・関心を高めるパターン

1・2年生活科「生きものなかよし 大きくせん」

学級園で見つけたツマグロヒョウモンの幼虫を育てた。蛹になり、その後羽化した成虫を見た児童から「雄なのか雌なのか？」と疑問が出された。すると、ある児童が図書室から「小学館の図鑑NEO昆虫」「学研の図鑑昆虫」などの本を借りて調べ始めた。体にちょっとした違いがあることに気付き、疑問を解決することができた。そのことによって児童の昆虫に対する興味・関心が更に高まり、昆虫の世話をする姿や他の昆虫を調べようとする姿がより見られるようになった。



子どもにとって教科書だけでは理解しにくかったり、教師の説明だけではイメージしにくかったりすることがある。その際、学習内容をより明確に理解させたり、子どものイメージを補完したりするための手立てとして図書資料を活用する。(教科書の内容を越えない。)

(1) 教師が意図的に1冊の図書を使って授業を展開するパターン

5・6年 学級活動「いじめ問題を考える」

いじめ問題について考え、いじめは絶対に許さないという態度を育成するために、いじめについて考える場面で図書室にある絵本「わたしのいもうと」活用した。いじめは、人の心を傷つけることであり、絶対にあってはいけない許されないということを、この本の読み聞かせから感じさせることができた。



(2) 子どもが課題意識をもって調べ、考えたりまとめたりするパターン

1・2年 生活科「生きものなかよし 大作せん」

自分の好きな昆虫などを調べて発表する活動に取り組んだ。ある児童は、自分でトンボを捕まえ、図書室から借りてきた実物大の写真がある図鑑に、実物のトンボを重ね合わせながら名前を調べていた。児童は、その図鑑は実物大の写真があることを知っていたことから、大きさを合わせることで昆虫特定の材料になるという発想に至っていた。ネット上の情報からは思い浮かべられない手法だった。他の児童にもその方法を紹介したところ、次々と試していた。



6年 算数科「対称」

児童は、身の回りの記号の形の美しさ、バランス、安定性などから対称性に興味をもち、「マーク・記号の大百科①～⑥」等の本を用いて線対称な図形と点对称な図形を探した。

身の回りの記号の形を対称性に注目して見るようになるようになった。



(3) 学習内容に関わる本を短時間で紹介することにより理解を深めるパターン

3年 算数科「三角形」

三角形の特徴の学習をしている時に、角の大きさについて学んでいた。その際に、児童の一人が「角の大きさを使った面白い本がある。」と言い、図書室から本を持ってきて皆に紹介した。その本は「ふしぎなにじ」で、本の開き方によって虹が不思議な見え方をする本である。その児童は、角の大きさの違いを学びながら、本の開き方が角の大きさそのものであることに気付き、学習に生かせると考えたようだ。他児童も本を楽しみながら体験的に学習内容を理解することにつながった。



教科書の学習内容を越えた発展的な学習内容について、子どもが自発的に調べたり教師が意図的に学ばせたりする。

1年 国語科「くちばし」

国語の説明文で、鳥の種類によってくちばしの形が違うことを学んだ。その際に、「他の鳥のくちばしはどうなっているの?」「ちがう形もあるのかも?」などの疑問が出された。そこで、図書室にある鳥の図鑑を教室に持ってきて調べてみるようになった。児童は、教科書にあるくちばしと見比べながら、似たような形や変わった形のくちばしを探していた。鳥によって、くちばしの形には違いがあることがわかり、その理由まで考えるなど学びの幅を広げることができた。



3年 外国語活動「カナダをもっと知りたい!」

A L Tの母国（カナダ）について紹介してもらい外国の文化や風習に関心をもたせる活動を行った。教室で一通りの紹介が終わると、「もっと教えて!」という児童の声が聞かれた。そこで、図書室の本を使って自分たちで詳しく調べる活動を取り入れた。児童は準備しておいた本からカナダを見つけたり、本に載っていた事柄についてA L Tに尋ねたりしていた。児童それぞれが関心をもった事柄について、詳しく調べることがつながり、活動をより幅広い深まりのあるものにする事ができた。A L T任せの活動ではなく、児童自らの調べ学習を取り入れたことで主体的に取り組ませることができた。



4年 理科「雨水のゆくえと地面のようす」

実験で雨水の流れる向きと地面の様子を観察し、水の害から暮らしを守るための工夫について学習した。その際、「水による災害にはどんなものがあるのか?」「水の害から暮らしを守る他の工夫は?」という疑問が出された。そこで、県立図書館から配本された「よくわかる! 天気の変化と気象災害③気象災害から暮らしを守る」などの本を用いて調べてみることにした。水の害の様子を知り怖さを感じたり、防災の大切さを感じたりと、児童は学びの幅を広げていた。今後の他教科での災害や防災の学習についての興味・関心を高めることにもつながった。



5・6年 総合的な学習の時間「見つめよう、命」

老人ホームを訪問して、その機能や福祉の大切さ等を知る学習を行った。訪問前、介護施設等の役割や働く人々の仕事内容等を詳しく知るために「人間」という本を活用した。訪問に対する目的意識を高めることができ、活動の計画や準備、当日の活動に生かすことができた。



自分の思いや考えをもつことができなかつたり、自分の思いや考えをどのように表現したらよいか分からなかつたりする際に、図書を活用する。

3年 国語科「春のくらし」

4年 国語科「春のたのしみ」

春について具体的なイメージがわからない児童について、春を感じさせる言葉や春の様々な日本の情景が載っている本を使って、自分のお気に入りの春をイメージさせた。新しい言葉や事物の発見もあり、教科書に紹介されている内容を超えた幅広い学びになった。感じたイメージを基にしながら自分の詩や俳句に取り入れようとする児童の姿が見られた。



5・6年 図画工作科「校内スケッチ大会」

図書室にある「風景をかこう」の本は、描きたい対象物や表してみたい表現技法などが参考例としてたくさん掲載されている。

校内スケッチ大会の際に、何をどのように描いたらよいか戸惑っている児童がいた。そこで、この本を参考にしながら、自分の描きたい風景をどのように表現していくかイメージをつかませてみた。参考例を基にしながら、自分のイメージにあった表現技法を選ぶこともでき、描画に苦手意識のある児童にとって助けとなった。



6年 家庭科「できることを増やしてクッキング」

調理に必要な用具や食品を安全で衛生的に取り扱いながら、朝食で炒め料理を作る学習である。教科書に掲載された料理だけではなく、他にも自分たちで作ることができる料理があるのではないかという意見が児童から出され、調べてみることになった。「はじめてのたのしいお料理」「はじめてつくる朝ごはん」「おりょうりブック」等の本で調べた。様々な具材で朝食が作れることを知り、家庭科での活動の充実だけではなく、自宅で調理したいという意欲を高め、実践につなげることができた。



3～6年 総合的な学習の時間「野菜を育てよう」

野菜や麦の栽培で学んだことや感じたことなどをパソコンを利用して新聞形式でまとめることになった。4年生のときに国語科で新聞づくりのポイントを学んではいたが、どのようにまとめていけばよいか忘れていたようだった。そこで、「新聞づくり入門」の本を活用した。新聞の見出しやレイアウト、図表の効果的な使用について調べながら、新聞づくりに生かすことができた。



イ 活用リストの作成

4つの視点を持ち、更に授業実践につなげやすくするために「図書・図書室機能を生かす活用リスト」の作成を行った。

各学年の全教科領域・全単元を対象に、授業で図書の活用が想定できる内容についてリストアップし、活用の場面や活用の仕方、図書室にある書名や分類番号をまとめた。授業に活用できる図書を明記することで、授業準備に役立てられ、また児童が調べたいと思う際に即座に対応できる利点があると考えた。



【活用リスト作成の様子】



1・2年	生活科	5月	単元名『どきどきわくわくまちたんけん』	2～7/7				
ねらい	学校の近くを探検し、まちの様子を知るとともに、人々や自然と触れ合い、地域のことを好きになることができる。							
活用場面	展開・終末							
活用の仕方	1 春の草花や樹木、虫などの動植物について調べる。 2 春の動植物と諸感覚を通した触れ合い方や遊び方を知る。 3 春の絵本を読む。							
参考図書	かわいい草花あそび (7969) はじめての学校生活 10 「しぜんとあそぼう」 (3221) 遊び図鑑 (5810) 草花のうえかたそだてかた (4199) ハンディ版 学校のまわりでさがせる生きもの図鑑 1 (5346) ハンディ版 学校のまわりでさがせる生きもの図鑑 2 (5347) 小学館の図鑑NEO植物 (6925) スーパーワイド版 植物のふしぎ (5386)							
活用分類	興味・関心喚起型	○	理解型	○	発展型	○	表現型	○

3年	算数	9月	単元名『長さ』	3/8				
ねらい	道のりと距離の意味や km と m の関係と長さの計算の仕方を知る。							
活用場面	終末							
活用の仕方	1 1000m が 1 km だということと、長さの計算の仕方を知る。 2 「これまでにならった長さの単位で、「m」「c」「k」って何なのだろうか？」							
参考図書	単位と比 (4171) 目でみる単位の図鑑 (6674) 目で見てわかる身近な単位 (7984) ことば絵事典②単位・数え方・色・形のことば (4880)							
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○	発展型	○	表現型	○

【活用リストの抜粋】

ウ 公立図書館との連携

図書を活用したくても図書室に蔵書がない場合は、公立図書館から配本を受けた。活用リストを基に、蔵書がない本や授業のねらいに即している本を配本してもらうなどの支援をいただいた。公立図書館と学校図書館とのより効果的な連携について模索している。



【配本された本の確認】

(2) 研究内容2 子どもの「読みたい」をふくらませる図書環境の整備、家庭・地域との連携

「読みたい」という気持ちをふくらませながら日常的に本に親しむ児童を育成していくために、魅力的な本をどのように紹介していくか、本を読む機会をどのように設定していくか、保護者や地域の方とどのように連携を図り共に取り組んでいくのか、という3つの視点で研究を進めていくことにした。

ア 魅力的な本の紹介の工夫

子どもたちが新しい分野の本に興味をもったり、幅広いジャンルの本を読んだりして魅力的な本とたくさん出合えるように、本のよさを紹介する5つの視点を設定し、図書環境の整備に努めている。

学校司書が日々子どもや職員とのコミュニケーションをとったり、学校内に広くアンテナを張りめぐらせたりして、時機に応じた展示を行っている。

図書環境整備の視点

- ① 季節やタイムリーな話題に応じた展示
- ② 小規模校の特性を生かした、個に応じた展示
- ③ 子どもの興味・関心を引く仕掛け
- ④ イラストや手描きを生かした温かさのある展示
- ⑤ 各教科の進捗状況に応じた展示と学級での工夫

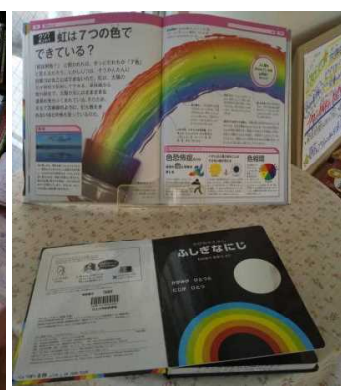
① 季節やタイムリーな話題に応じた展示



【秋の実りの展示】



【チョコレート菓子作り】



【虹がかかった日の展示】

② 小規模校の特性を生かした、個に応じた展示



【児童の手品ブームに合わせて】

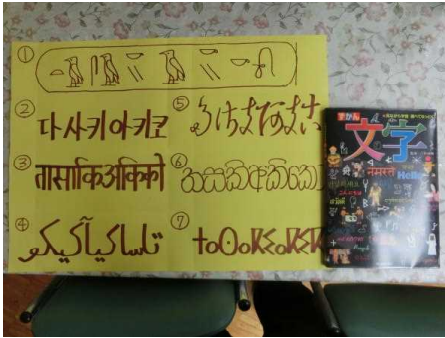


【宝石好きな児童向け】



【七夕好きな児童向け】

③ 子どもの興味・関心を引く仕掛け



【「何これ？」と思わせる工夫】

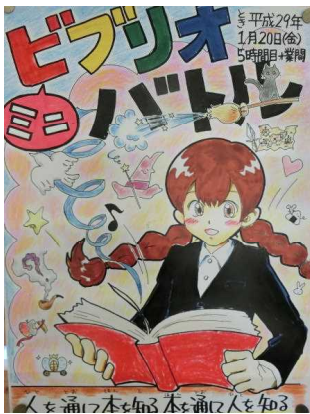


【梅の実りに合わせて】



【愛鳥週間コーナー】

④ イラストや手描きを生かした温かさのある展示



【魅力的なポスター】



【手書きの親しみやすさと温かさ】



【手作りハウスの中で読書】

⑤ 各教科等の進捗状況に応じた展示と学級での工夫



【6年国語科「やまなし」関連図書】



【3年国語科 並行読書用】



【総合的な学習「麦」】



【1・2年生活科 関連図書】



【4年理科 水害の記事】



【国語教科書の掲載図書】

イ 本を読む機会の設定

可能な限り本に親しめる時間を確保できるように、以下のように本を読む機会を多数設定している。

活動名	時期	場所	実施内容
音読戦隊 川上ヨメルンジャー	毎週水曜日 朝の活動	各担当職員 の教室等	○ 児童の一人読みを担当職員が評価 (全職員で担当) ○ ペア読書・読み聞かせ(交流の機会)
読書タイム	毎週水・金曜日 朝の活動	各教室	○ 委員会活動後の一人読みやペア読書
お話カンガルー(朝)	毎月第4水曜日 朝の活動	図書室 (多目的H)	○ 地域有志による読み聞かせ
お話カンガルー (放課後子ども教室)	毎週火曜日 15:30~15:45	図書室 (多目的H)	○ 地域・保護者有志による読み聞かせ ○ 地域企業による読み聞かせ ○ ミニビブリオバトル大会 (地域・保護者・児童・職員)
	毎週火曜日 15:45~16:00	図書室 (多目的H)	○ 読み聞かせ後の一人読みやグループ読書
音読・読書の 家庭学習課題	毎日	各家庭	○ 一人読み(読書や音読) ○ 様子等を保護者がチェック
親子読書	毎学期1週間	各家庭	○ 親子で一緒に読む ○ カードに記録
家読(うちどく) の日	毎月第2土曜日	各家庭	○ 家庭学習の課題(他課題を減らす) ○ 家読カードの記入と図書室等での掲示
校内読書月間	10月	図書室 (多目的H) 各自	○ 児童・職員の推薦図書紹介 ○ 本でビンゴ、読書郵便の実施 ○ 職員による読み聞かせ等
子ども読書	毎学期1回	図書室 (多目的H)	○ 図書・情報委員会の児童での取組 ○ 紙芝居・パネルシアター等

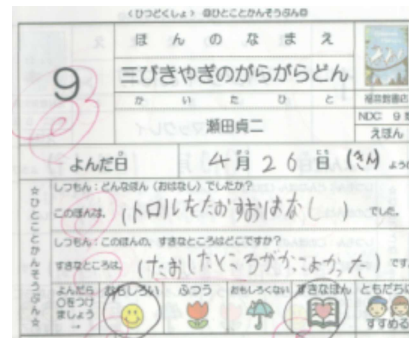
※ 新型コロナウイルス感染対策のため図書室から多目的ホールでの実施に変更

《 必読書の学級への配置 》

各学年で児童に読んでほしい本を独自に20冊選書し、各学級に配置している。発達の段階に応じた本、学習内容と関連のある本、児童の実態から読んでもらいたい本等を選書している。国語科教材の



【学級への必読書の設置】



【必読書ノートの一部】

関連図書も選んであり意図的に並行読書につなげている。読書の質を意図的に高める効果も期待できる。児童には1年間で全ての必読書を読むように声掛けを行っている。

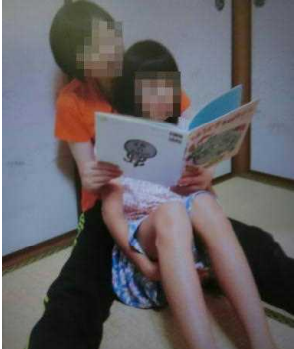
各学年ごとに「必読書ノート」を作成し、読んだ後で、どんな話だったか、好きなところはどこか等について、それぞれ1行ずつノートに感想を書かせている。

ウ 保護者や地域を巻きこんでの連携の工夫

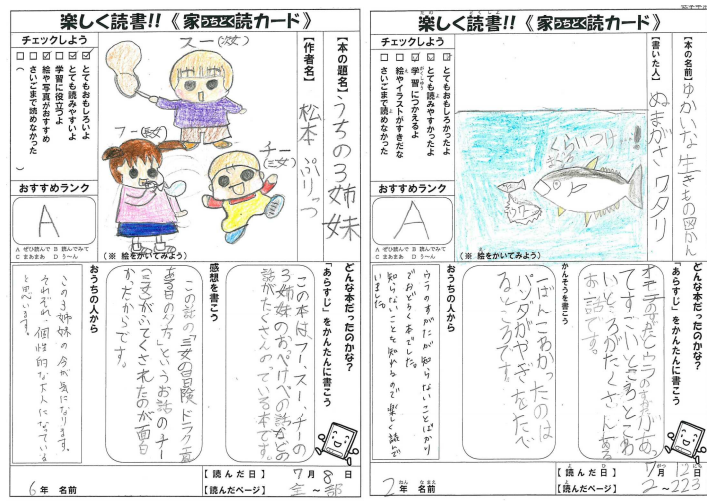
(7) 親子読書週間と家読の日の実施

家庭での読書を啓発し、親子で読書に親んでもらう目的で、毎学期1週間、「親子読書週間」を設定している。日頃は、親子でゆっくり読書に向き合う時間がとれない家庭もあるが、この1週間は意識して取り組んでもらい、親子読書のよさを味わいながら、本を通しての親子の交流などが図れるようにしている。

氏名	提出状況	実施期間	児童日数	保護者日数	掲載可・不可
1年児童	○	上記と同じ	7	7	可
感想	児童	こどもがおとなによみかせをしておとながこどもによみかせをしたのしいなおもいました。			
	保護者	読み聞かせをし合うのがとても楽しかった。読み終わると、自然と本のおもしろかったページをまた開き、「ここがおもしろいね。」と会話も盛り上がった。			



また、児童が家庭で読書に向き合える機会を設けたいと考え、毎月第2土曜日を「家読（うちどく）の日」としている。家庭学習の課題を減らし、読書にじっくりと向き合える時間を確保した。家読カードに読んだ本のあらすじや感想を書き、保護者からのコメントも添えられるようにしている。なお、「おすすめランク」等の欄を設け、掲示されたカードが本の紹介や児童間の交流にもつながるようにした。



(イ) 放課後子ども教室におけるお話カンガルーの読み聞かせ、ミニビブリオバトル大会

本校の歴史ある読み聞かせグループ「お話カンガルー」は毎月1度、朝の時間に活動してきた。しかし、近年協力者が減少し、平成30年度は2人での活動となっていた。そこで、お話カンガルーの増員と活動の充実を図るため、運営委員会において検討し次のような方向性でお話カンガルーを運営していくことに決まった。

- ① 開かれた学校づくりのためにも、保護者や地域住民だけでなく、広く企業や公立図書館等にも呼びかけて協力をもらう。
- ② 毎週火曜日の放課後子ども教室の時間にも活動を行う。児童の一人読みの時間の確保のために、前半15分を読み聞かせ等、後半15分を一人読みやグループ読みの時間とする。

結果として、メンバーが地域企業も含め20人以上に増え、様々な方が多様な立場や思いをもって読み聞かせをしてくださるため、子どもたち、読み手の双方にとって互いにより刺激になっている。また、ミニビブリオバトル大会を開くこともあり、本の紹介の仕方や伝え方等を楽しみながら学ぶ機会にしている。読み聞かせ後には、本の内容を振り返られるようなクイズ、児童が本の感想や絵、言葉から感じたこと、気付いたことなどを発表し合い、交流できる機会等を設けている。

放課後でのお話カンガルー実施に際して、活動時間を確保する必要があり、昨年度半ばに校時表の見直しを行った。火・木曜日の放課後に時間的な余裕をもたせるように朝の活動や掃除時間をカットした。(木曜日は英語活動を行っている。)

地域企業による読み聞かせ



【焼き芋製造会社】



【セラミック製品製造会社】



【清掃関連会社】

地域住民・保護者による読み聞かせ



【地域住民】



【保護者】



【保護者】

ミニビブリオバトル大会・一人読み 等



【ミニビブリオバトル大会】



【後半15分の一人読み】



【後半15分のグループ読み】

読み聞かせは初めてだったけど、図書館で子どもの顔を想像しながら選書したり、我が子相手に読み聞かせの練習をしたりして、楽しい時間を過ごせた。後日、子どもたちから「〇〇君のお母さん、この前は楽しかったよ。」と言われ、子どもたちと距離が縮まってよかったと感じた。(保護者)

校区にある企業なのに、一度も学校に来る機会がなかった。地域貢献をするよい機会をいただいた。また、自分は朗読を毎週習いに行っており、練習の成果を披露する機会をいただけて逆にありがたいことだと思う。(地域企業)

娘が小さかったとき一緒に読んでいた思い出の一冊を子どもたちの前で読むことができ楽しかった。当時を懐かしく思い出す。自分の方が、生きがいをもった感じがする。(地域住民)

エ 図書室環境の充実

よりのびのびと過ごせる環境、学習スペースの確保を考え、広い教室へ図書室を移動をした。また、書架が不足していたため、環境に合わせたサイズの書架10台を職員で作成して設置した。手作り感があふれ子どもたちが喜ぶ環境になっている。



【新しい図書室】



【書架の作成】

(3) 研究内容3 子どもが「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする交流活動の工夫

「楽しい」という気持ちをもちながら、読んだり伝えたりする活動に取り組む児童を育成するために、「本は楽しい」と感じさせるための3つの視点での実践と、校内ビブリオバトル大会を通じた児童・保護者・地域との交流について研究を進めることにした。

- 本は「楽しい」と感じさせる手立て
- 楽しさを皆で共有し合う場の確保
 - 満足感・成就感を得られる場の確保
 - 「感想」だけでなく、「気付き」の共有へ

ア 本の楽しさを感じさせるための工夫

(7) 楽しさを皆で共有し合う場の確保

音読戦隊川上ヨメルンジャーの計画に異学年がペアになったの読み聞かせやペア読書を盛り込んだ。子ども同士で読み合うことで、相手によりよく伝えようとする深い読み取りや伝え方の工夫が期待できると考えた。また、毎日の家庭学習の課題に出している音読に対しても目的意識をもって臨むことができる。ペア読書は、短時間で簡単に取り組むことができる。意図的に学習に関する本等に限定することで、楽しみながら学習活動を深める活動としても有効である。



【ペア読書】

さらに、学期毎の「子ども読書」「親子読書」についても継続して取り組んでいる。



【子ども同士の読み聞かせ】

(8) 満足感・成就感を得られる場の確保

本の楽しさを感じ、読書や調べ学習等への意欲を継続的にもたせていくには、活動に対しての満足感や成就感の獲得が必要であると考えた。そのために、児童がお気に入りの本や感想を紹介したり、調べて分かったことを発表したりする機会を確保した。これらの取組によって、児童が褒められたり認められたりする機会が増え、次の取組への意欲をもたせることができる。また、こうした交流を通じた学びの共有も図ることができる。

各学級での取組(抜粋)	
学級	取組の内容
1・2年	○ 「読書ノート」を用意して、本を読んで気付いたこと、好きな絵、面白かったことなど、自由に書いていく。(振り返り等に活用も) ○ 朝の会で、読んだ本の紹介をする。
3・4年	○ 本で調べたこと、読んだ本のこと等を「ふれあいノート」に簡単に記入する。 ○ 記入したことを紹介し質問等に答える機会として朝の会に「交流タイム」を設ける。
6年	○ 本で調べて分かったこと、気になること、紹介したいこと等に付箋を貼り、学習の練り合いの際に生かす。 ○ 読んだ本のこと等を「ふれあいノート」に記入し、朝の会で紹介する。

機会の確保については、授業や活動の際に取り入れることはもちろん、交流しやすくするための記録ノートの活用や、朝の会での交流場面の設定などにも取り組んだ。記録ノートは継続的な取組になるように簡潔に記入するようにして、記入自体の



【1・2年の本の紹介】



【3・4年生の交流タイム】

負担を減らすように工夫している。

また、家読カード等を掲示したり、ヨメルンジャーで感想の交流をしたりすることによって、伝わりやすいように書いたカードや家庭で頑張っ音読の練習をしてきた努力を認め、満足感・成就感につながるようにした。

(ウ)「感想」だけでなく、「気付き」の共有へ

読み聞かせの後に、感想だけでなく本の文章表現や絵などについて、互いの気付きを伝え合うようにさせた。読んでもらった本について、子どもの素直な気付きを自由に出させることで、共感や反発する意見が出やすくなり、自然発生的な交流が生まれることが期待できる。「感想は？」だけでなく「何か気になったところがあった？」「どのページが心に残った？」等の問いかけを加えることで、子どもの気付きを引き出すようにしている。日頃の学級経営で何でも言い合える土壌づくりをしていることも大切である。



【読み聞かせ後の交流】

イ ビブリオバトル大会

ビブリオバトルとは、本の紹介者が順番に制限時間内に自分のお気に入りの本をアピールし、誰の本が一番読みたいかというチャンプ本を決める読書活動である。本校は平成25年度から校内ビブリオバトル大会を行っている。

11月に実施している川上フェスタでは保護者や地域住民を招いた全児童による校内ビブリオバトル大会を実施し、読んだ本について自分の思いを発表する機会としている。(毎月第4火曜日放課後のお話カンガルーでは校内ミニビブリオバトル大会を実施。)

ビブリオバトルには、「自分の好きな本を紹介すること」自体が楽しいというよさがある。人前での発表が苦手な子ども、うまく話題を見つけられない子ども、好きな本のことから気持ちが楽になり、素直に自分の気持ちを語ることができる。また、紹介する本のよさを分かってもらうために話す内容や話し方を工夫して、自分の思いが伝わったときの喜びはとても大きい。また、参加者も発表を聞くことを通して、新しい本だけではなく、発表者の人となりを知ることができる。「発表する人はどんな本を選んだのか」「どんな感想をもったのか」等と興味をもって聞くことで、児童への理解を深めたり、新たな一面を見つけたりすることができる。児童・保護者・地域住民の相互理解と交流にも寄与する機会として位置づけ、取り組んでいる。

校内ビブリオバトル大会で紹介された本はどれも人気になることから、子ども同士でその本について話している姿をよく見かけ、家庭での話題にもなっている。



【校内ビブリオバトル大会】



【ミニビブリオバトル大会】

10 成果と課題

(1) アンケート調査から見る児童と保護者の反応

※ 各項目4点満点の評価の平均点

対象	質問項目(抜粋)	調査結果の推移			
		1回目 R1.06	2回目 R2.02	3回目 R2.09	1・3回目の 比較
児童	1 本が好きか	3.6	3.5	3.8	0.2
	2 家で本を読んでいるか	3.4	3.4	3.6	0.2
	3 音読は好きか	3.2	2.8	3.1	▼0.1
	4 図書室等をよく利用しているか	3.9	3.9	3.8	▼0.1
	5 本を学習に生かしているか	3.3	3.4	3.4	0.1
	6 本を親子で読んでいるか	2.4	2.6	2.7	0.3
	7 家読の日をどう思うか	—	3.7	3.8	0.1
	8 お話カンガルーをどう思うか	—	3.6	3.7	0.1
保護者	1 児童は本が好きだ	3.3	3.4	3.7	0.4
	2 児童は家で本を読んでいるか	3.1	3.1	3.6	0.5
	3 児童は音読が好きか	2.8	2.6	2.9	0.1
	4 児童は家で音読をしているか	2.8	3.0	3.2	0.4
	5 児童は本を学習に生かしているか	2.6	2.8	2.9	0.3
	6 親子で本を読んでいるか	2.3	2.3	2.2	▼0.1
	7 学校の読書指導は充実しているか	3.5	3.8	3.7	0.2
	8 学校は読書環境が充実しているか	3.8	3.9	3.8	0
	9 ビブリオバトルは有意義であるか	3.5	3.9	3.7	0.2
	10 家読の日は有意義であるか	—	3.5	3.5	0
	11 お話カンガルーは有意義であるか	—	3.6	3.5	▼0.1
	12 本に親しみ生かす姿が多くなったか	—	3.5	3.5	0

【調査対象】 令和元年度（児童16名，P戸数9戸） 令和2年度（児童19名，P戸数13戸）

〈主な児童の反応〉

- 本には自分の気になることを解決してくれる，知らないことを知ることができるよさがある。（6年） 気分が切り替えられる。（3年） 読書は楽しいし面白い。（2年）
- 図書室は楽しくて落ち着く。大好き。（6年） 学習の手がかりがたくさんある。（4年）
- 好きな本を家読カードで伝えられるのがうれしい。大好きな宿題だ。（3年）
- 色々な人に読んでもらえるお話カンガルーは楽しい。本が読みたくなる。（6年）

〈主な保護者の反応〉

- 大人でもわくわくする凄い読書環境がある。特設コーナーや工夫があって素晴らしい。
- ビブリオバトルで，伝えたいことを考えて文にして発表するのは難しく凄いことだと思う。
- 家読の日は，親子で本を読む機会になる。どんな本を読んでいるのかも分かる。
- お話カンガルーは地域の方とふれあうよい時間だ。新鮮な感じになって楽しめるのでは。

〈考察〉

- 読書に関する児童の意欲や態度，学習での図書活用の意識など高い数値を維持できた。新たな取組についても児童の反応はとてもよい。今年度対策を講じた音読への効果の波及は時間をかけて見ていきたい。
- 児童が家庭で本と関わる姿が多く見られるようになってきた。本校の読書環境や新たな取組についても保護者の評価は依然として高く，特色ある教育活動の一つとして受け入れられている。

(2) 研究内容 1 について

- 教師の問い返しや関連図書の提示により「なぜ？どうして？」という気持ちが高まり、自ら本で調べる姿が多く見られるようになった。
- 「活用リスト」の作成により、授業での図書活用が容易に効果的にできるようになった。また、公立図書館との連携により充実を図ることができた。
- 児童が自分で必要な本を探し出し活用するための手立ての工夫
- 授業実践を通じた「活用リスト」の改善と公立図書館との更なる連携

(3) 研究内容 2 について

- これまでの充実した図書環境をベースに紹介コーナーや読み聞かせ・読書機会の拡充等の工夫により、児童の読書意欲は更に高まった。
- 保護者や地域住民、企業等多様な人に関わっていただいたことで、児童の読書経験や読書の幅を広げることができた。
- 家庭での読書や音読の推進について、より取り組みやすくするための工夫や連携

(4) 研究内容 3 について

- 自分の読書体験を伝え、感想を交流することで満足感や成就感が得られ、読書を心から楽しむ姿が見られるようになった。
- ビブリオバトル大会により、読書のよさを広げるだけでなく、児童の表現力を高め、本を通して他の人と繋がる楽しさを実感させることができた。
- 児童が日常的に気軽に交流できるように、場の大小や時間の長短にかかわらず交流の機会を多く設定する必要がある。

(5) 研究全体を通して

- ・ 保護者・地域をはじめ多くの方が子どもたちと関わり、自然な流れで読書環境を整えることができた。
- ・ 小規模校で教職員一人一人の負担はあったが、これまでの取組を土台に教師自身が力を入れすぎずに取り組むことで、児童を含め関わった人は皆、本のよさと楽しさを実感できた。



【新着図書の紹介コーナー】



【市立図書館員のエプロンシアター】



【動物病院長の読み聞かせ】



【みんなで話しながら】



【ひとりでじっくりと】



【辞書もすぐ取れる所に】

研究同人

〈 校 長 〉	北 洋 昭	〈 養護教諭 〉	原ノ園 富加
〈 教 頭 〉	米 盛 直	〈 事務主査 〉	下野 友紀
〈 1・2年担任 〉	西山 香月子	〈 学校司書 〉	田崎 晶子
〈 3・4年担任 〉	北野 誠一郎	〈 学校主事 〉	西別府 久子
〈 6年担任 〉	中村 昌裕		
		〈 旧 同 人 〉	岡留 真吾
			新原 仁
			神宮司 弘子

令和元年・2年度 鹿児島県教育委員会指定研究協力校「読書指導」

研 究 紀 要

令和2年（2020年）10月

いちき串木野市立川上小学校

〒899-2102 いちき串木野市川上1200番地

TEL 0996-36-2044 FAX 0996-36-5039

E-mail kawakmisyo@po12.synapse.ne.jp